

クラス番号	903	担当教員名	伊藤 文人
テーマ	映画・小説・ドキュメンタリーを通じて「ケアの世界」を考える		

ゼミナール概要

<概要>

社会福祉やソーシャルワークへの社会的認知度は30年前に比べれば遥かに浸透してきました。こうしたことを背景に、社会福祉やソーシャルワークおよびこの領域で働いている「社会的専門職を題材にした小説、マンガ、映画、ドキュメンタリーなども増えてきました。

本ゼミでは、社会福祉やソーシャルワークとそこで働く社会的専門職が映画や小説、ドキュメンタリーなどでどのように描かれている（認識されている）のかを検討することを通じて、私たちが持っている社会福祉的な「ケアの世界」への認識を相対化しながら、「社会的専門職」になっていく上での基本的な「ちから」を培っていきたいと考えています。

<目的>

- ①基本的なリテラシー（「読み」「書き」「報告」「討論」の方法）の習得
- ②映画や小説の題材の背後にある社会構造や社会問題への認識
- ③そこから得られたケアの描かれ方に対する私たちのケアの世界のあり方を構想すること。

<内容>

- ①「ケアの世界」で描かれている諸問題（愛憎、差別、偏見、排除、ジェンダー・バイアスなど）を知る
- ②「ケアの世界」の背後にある社会構造上の問題（資本主義、貧困、社会サービスなど）と専門職固有の問題（個人的倫理・価値観と専門職の倫理価値観など）を知る
- ③映画や小説、マンガを題材（媒介）としつつ、私たち自身の構想する「ケアの世界」を提示していく。

<方法>

- ①映画、小説の内容を「要約」したり、関係する資料や本を丁寧に「読む」（読み込む）ことで、題材をきちんと理解していく。
- ②グループ毎の関心に基づいて、ケアの世界を描いた映画・小説・マンガなどを紹介し、その分析・論評を行う。

<授業計画>

前期は、ケアの世界を描いた（主に教員が用意した）内外の映画やドキュメンタリーの鑑賞（全部ではない）も交えつつ、その世界を毎回要約文にまとめてもらいます。その上で、要約の仕方や関連する資料の読み方を習得しつつ、グループ討論へつなげます。

後期は、こうした基礎力を踏まえて、それぞれのグループが推薦する映画や小説、マンガを発表してもらい、内容への論評、ディスカッションを行い、最後にまとめのレポートを執筆してもらいます。

担当教員からのメッセージ

映画や小説は、時代を映す鏡でもあり、たとえそれがフィクションであっても背景には現実世界で起きている出来事の内実が反映されています。映画や小説の世界にも「福祉的世界＝ケアの世界」が描かれるということは、それだけ私たちの生活にとってケアを考えることが身近になっていることでもあります。ケアの世界の解決が深刻になっていることをも示唆しているかも知れませんが、ケアの世界で将来生きて行く私たちにとって、これらの作品の世界観を追体験していくことは、なんらかの形で私たちの（専門職像の）世界観や倫理観に影響を与えそうですね。個人的には、みなさんからの提案を重視したいので、「知ってみたいこと、疑問に思っていること、やってみたいこと企画」を歓迎します。他者の生活や考え方に興味を持ち、人の話を聴くのが好きで、一緒に学びあい助け合うことを厭わない人を歓迎したいと思います。